

シェア空間を利用したいのは誰なのか

前編 デモグラフィック属性から見たシェア空間

「共」あるいは「シェア」ということばや概念を持つ消費形態が注目され、広がり始めてからもう10年以上が経つ。三浦展氏が『第四の消費』への変化の特徴として「私有主義からシェア志向へ」を挙げ、私有や私生活を否定するものではないが、「私有や私生活ではむしろ満たされない願望があることに気がつき、その不満をシェア型の行動によって解消しようとする人が増えてきた」（『第四の消費』p.148）と述べたのは東日本大震災の翌年2012年である。その後、ビジネスとしてのシェアリングエコノミーが拡大する一方、経済的格差の拡大や個人の孤立化などの問題を背景に、子ども食堂や居場所といった「共(助)」的な場や活動も拡大してきた。

ただ、実際のところ、こうした消費(なか生活なのか)形態がどの程度浸透し、どのような人がこうした消費形態を欲しているのかについての数字は、これまであまり存在していなかった。今回筆者は、三浦氏を中心に設立された「下流社会15年後研究会」の『現代日本人の意識と価値観調査』2020年(三菱総合研究所のモニターのうち、25～54歳の男女2,523人に実施)に参加した。そこで、モノやコト、場所や時間を共有する空間・施設(以下、シェア空間と称する)18種類について「つぎのような場所(施設)が近所(自転車10分以内)にあった場合、あなたが月1回以上利用したいものをいくつかあげてください」という設問により、これらの空間・施設の利用意向者のボリュームおよびプロフィールを分析・考察した。その結果を今回と次回にわたり、掲載する。

利用したい シェア空間はどこか

「利用したいシェア空間」の全体順位は、1位「賞味期限直前等の食材を安く入手

できる場所(フードバンク等/以下、フードバンク)』(31.8%)、2位「何もしなくても何かをしても、まわりを気にせず一人で無料でいられる場所(以下、無料の居場所)』(28.3%)、3位「いつでも本を借りたり読んだりできる図書館・図書室(以下、読書スペース)』(28.1%)、4位「低価格で気軽に運動できるジム・運動場(以下、運動スペース)』(27.2%)、5位「使わない持ち物等を交換したり、売ったりできる物々交換の場所(以下、物々交換)』(20.5%)であった。

一方、「調理設備や道具を使いあうシェアキッチン(以下、シェアキッチン)』(4.2%)、「アートの制作や演劇のけいこ、音楽等ができるアートスタジオ(以下、アートスタジオ)』(6.1%)、「小さい子供のいる親同士でおしゃべり等ができる親子サロン(以下、親子サロン)』(6.3%)、「誰かと食事をいっしょに作って食べる場所(以下、共食スペース)』(8.6%)、「リモートワークができるシェアオフィス(以下、シェアオフィス)』(9.6%)、「けいこ事や学習ができる教室・市民大学のような場所(以下、学習スペース)』(9.8%)は10%に満たない。

また、「以上にあてはまるものはない(以下、なし)」という人が19.9%と2割近くいる。

男女・年齢別の 「利用したいシェア空間」

男性はどのスペースについても低めで、「なし」が22.9%と多く、全体より多いのは「シェアオフィス」(12.1%/全体9.6%)と「シェアキッチン」(5.1%/全体4.2%)のみ。

女性は「シェアオフィス」「シェアキッチン」以外は、男性より高く出ている。中でも、「フードバンク」(女性37.6%、男性26.3%)、「読書スペース」(女性34.6%、男

性21.8%)、「物々交換」(女性26.2%、男性14.9%)、「食品や手作り雑貨を作り手と話しながら直接買えるマルシェ・市」(以下、マルシェ) (女性16.6%、男性6.0%)は女性と男性の差が10%以上あり、女性が利用したいシェア空間であることがわかる。

さらにこれを男女の5歳刻み年代別で見ると以下ようになる。

25～29歳男性では「なし」が最も高いが、それ以外では「無料や低価格で食事ができる食堂(コミュニティ食堂・子ども食堂等/以下、コミュニティ食堂)』(22.8%/全体17.1%)が高い。全体より多いのは「シェアオフィス」(18.1%/全体9.6%)と「シェアキッチン」(12.3%/全体4.2%)である。

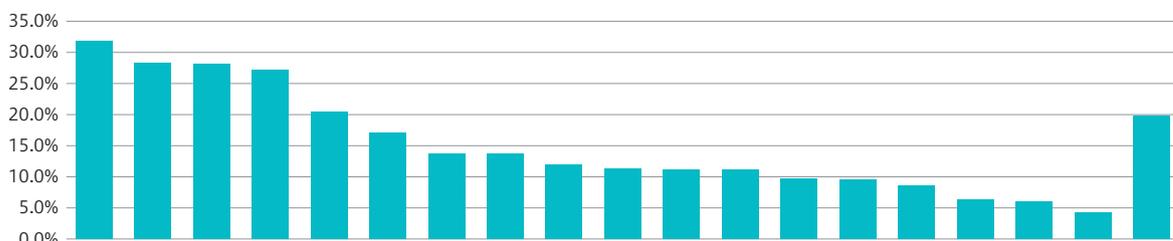
30代以上になると、全体より低い値のものが多くなり、特に50～54歳男性では「なし」が27.2%(全体19.9%)と全年代中最も高い。

女性の年齢別で見ると、女性25～29歳で最も高いのは「無料の居場所」(36.6%/全体28.3%)。「気軽に立ち寄っておしゃべりができるサロン・コミュニティカフェ(以下、サロン)』(21.7%/全体13.7%)も全体より高い。

女性30代になると子ども関係の場所が高くなる。「子どもが放課後気軽に立ち寄って勉強したり遊んだりできる場所(以下、放課後居場所)』は30～34歳で21.2%、35～39歳で19.6%、40～44歳で18.6%(全体11.9%)。「親子サロン」もこの年代で全体より高い。

女性40歳前後で高いのが食関係である。「フードバンク」は35～39歳で46.9%、40～44歳で44.7%(全体31.8%)と非常に高い。「コミュニティ食堂」も35～39歳で24.7%、40～44歳で23.0%(全体17.1%)。「マルシェ」も35～39歳で20.6%、40～44歳で18.1%(全体11.2

つぎのような場所(施設)が近所(自転車10分以内)にあった場合、
あなたが月1回以上利用したいものをいくつかあげてください (MA)



	合計	2523	31.8%	28.3%	27.2%	26.2%	25.4%	24.9%	24.6%	23.0%	22.9%	22.8%	21.8%	21.7%	21.6%	21.5%	21.4%	21.3%	21.2%	21.1%	21.0%	20.9%	20.8%	20.7%
全体	2523	31.8%	28.3%	27.2%	26.2%	25.4%	24.9%	24.6%	23.0%	22.9%	22.8%	21.8%	21.7%	21.6%	21.5%	21.4%	21.3%	21.2%	21.1%	21.0%	20.9%	20.8%	20.7%	
男性	1282	26.3%	24.9%	21.8%	24.6%	14.9%	15.8%	13.8%	13.7%	11.9%	11.3%	11.2%	11.2%	12.2%	12.2%	12.2%	11.2%	11.2%	11.2%	12.1%	8.2%	6.3%	6.1%	4.2%
女性	1241	37.6%	31.8%	34.6%	29.8%	26.2%	18.5%	15.4%	15.9%	14.8%	14.6%	16.6%	10.2%	13.5%	6.9%	9.1%	8.3%	4.3%	5.2%	5.1%	22.9%	7.0%	3.4%	16.8%
男性	25~29歳	171	22.2%	21.6%	17.0%	20.5%	12.3%	22.8%	11.7%	18.1%	9.9%	6.4%	12.9%	4.7%	5.8%	18.1%	11.1%	6.4%	5.8%	12.3%	24.6%	7.2%	5.6%	21.7%
	30~34歳	180	19.4%	28.9%	20.6%	22.2%	16.1%	17.2%	12.8%	17.2%	8.9%	6.7%	15.6%	5.0%	8.3%	13.3%	8.3%	6.7%	7.2%	5.6%	21.7%	7.2%	5.6%	21.7%
	35~39歳	201	30.8%	27.4%	25.4%	23.4%	16.4%	13.9%	12.9%	12.9%	9.5%	11.4%	8.5%	7.5%	6.0%	10.9%	11.4%	5.0%	4.0%	5.5%	20.4%	4.0%	5.5%	20.4%
	40~44歳	229	24.0%	20.5%	16.2%	26.6%	10.9%	15.3%	13.1%	9.2%	10.0%	7.0%	12.2%	5.2%	3.5%	10.5%	8.3%	4.4%	5.2%	3.5%	23.1%	5.2%	3.5%	23.1%
	45~49歳	266	28.6%	28.6%	25.2%	27.1%	16.5%	13.9%	13.9%	8.3%	9.8%	8.3%	10.2%	5.6%	7.5%	10.5%	6.0%	3.8%	5.6%	3.0%	20.3%	3.8%	3.0%	27.2%
女性	25~29歳	161	23.0%	36.6%	28.0%	20.5%	18.6%	12.4%	12.4%	21.7%	9.9%	8.7%	8.1%	12.4%	6.8%	12.4%	9.9%	10.6%	6.8%	5.0%	19.3%	6.8%	5.0%	19.3%
	30~34歳	170	33.5%	27.6%	28.2%	25.3%	21.2%	19.4%	11.8%	15.9%	21.2%	12.4%	6.5%	18.2%	14.1%	10.0%	2.4%	13.5%	7.1%	4.0%	22.4%	7.1%	4.0%	22.4%
	35~39歳	194	46.9%	35.1%	35.6%	33.0%	25.3%	24.7%	22.2%	19.1%	19.6%	18.0%	9.8%	20.6%	12.9%	8.2%	12.4%	12.4%	7.7%	3.1%	11.3%	7.7%	3.1%	11.3%
	40~44歳	226	44.7%	29.6%	43.8%	34.1%	31.0%	23.0%	15.5%	13.7%	18.6%	17.3%	11.9%	18.1%	13.3%	5.8%	11.5%	8.0%	9.3%	3.5%	17.7%	9.3%	3.5%	17.7%
	45~49歳	258	37.6%	35.3%	33.7%	32.2%	27.5%	16.7%	16.3%	13.2%	12.4%	12.8%	12.8%	15.9%	14.7%	5.0%	8.1%	5.0%	6.6%	3.1%	15.5%	6.6%	3.1%	15.5%
50~54歳	232	35.8%	27.2%	35.3%	30.2%	29.7%	14.7%	13.4%	14.2%	8.6%	16.8%	9.9%	14.2%	16.8%	3.0%	9.5%	3.4%	4.7%	1.7%	15.9%	4.7%	1.7%	15.9%	

注：表全体の検定は、カイニ乗検定(独立性の検定)で行っていません。表側変数と表頭変数に有意な関係があるかを検定します。エイツの補正は行っていません。個々のセルの検定は、調整済み標準化残差に基づき、標準正規分布による検定を行い、背景と文字色で検定結果(右表)を示しています。

例	検定結果
50%	有意に高い(間違え確率5%以下)
50%	有意に高い(間違え確率1%以下)
50%	有意に低い(間違え確率5%以下)
50%	有意に低い(間違え確率1%以下)

%)。特に35~39歳では「なし」が11.3%と最も少ないのが特徴で、この年代のこうした場所・施設への関心が高いことがうかがわれる。

女性40代以上で高いのは「読書スペース」(40~44歳43.8%、45~49歳33.7%、50~54歳35.3%/全体28.1%)や「学習スペース」(45~49歳14.7%、50~54歳16.8%/全体9.8%)。また、「物々交換」も40~44歳で31.0%、45~49歳で27.5%、50~54歳で29.7%(全体20.5%)である。

雇用形態、学歴、年収による「利用したいシェア空間」

ずっと正規雇用の人は「シェアオフィス」のみ全体より高く(12.3%/全体9.6%)、それ以外は低めである。一方、正規雇用から非正規・自由業・自営業の人は全体より高いものが多く、特に「フードバンク」(39.1%/全体31.8%)は高い。ずっと非正規・自由業・自営業の人は「無料の居場所」が高い(35.7%/全体28.3%)。

学歴別で見ると、「シェアオフィス」は

学歴が高いほど利用したい割合が高くなる傾向が見られ、高卒以下は「なし」が高い。

自分と配偶者をプラスした年収で見ると、年収なしと200万円未満の人は「無料の居場所」「フードバンク」が40%前後にのぼり、年収なしでは「コミュニティ食堂」も25.2%と全体(17.1%)より高くなっている。年収が高くなるとこれらの場所・施設を利用したい人は少なく、「運動スペース」「農地を共用して野菜などを育てるシェア農園・貸農園(以下、シェア農園)」、

Sachiko Takenouchi

(株) シナリオワークにて女性消費者を中心とする消費者研究、マーケティング戦略立案を多数手がける。
2015年4月、自宅を改装し、シェアハウス&シェアキッチン『okatteにしおぎ』をオープン。
(株) コンヴィヴィアリテ代表取締役。

「放課後の居場所」といったものへの利用意向が高い。「なし」が最も多いのは年収200万~400万円未満の人であった。

誰がどのようなシェア空間を求めているのか

以上のデータから、誰がどのようなシェア空間を求めているのかについて考察すると以下ようになる。

1. 全体として最も利用したい人の多かった「フードバンク」は40歳前後の女性、年収の低い人で利用意向の高い人が多い。似たような傾向は「コミュニティ食堂」にも見られる。「コミュニティ食堂」に関しては若い男性、単身世帯でも利用したい人が全体より多い。この2つは一般的には生活に困窮する人たちのセーフティネット的な食を提供する場所と考えられているが、「フードバンク」についてはできるだけ安価に家族の食材を入手したいと思われる、子どものいる母親の利用意向が圧倒的に高いのに対し、「コミュニティ食堂」については自宅で食事の用意がしづらい(場所やスキルが乏しい)であろう若い単身者にもニーズがあることが見てとれる。
2. 「放課後居場所」や「親子サロン」は子どものいる母親年代での利用意向が高い。「コミュニティ食堂」も含め、学校と家庭以外で子どもを安全に居させられる場所を求めていることがうかがわれる。コロナ禍で在宅ワークが増える中、保育園や学童だけでは子どもの受け皿が足りないということなのかもしれない。また、子どもの居場所ということだけでなく、母親も子どもとともにそこに行き、子どもたちが遊ぶかわらで、子どもとは別に他の大人と話ができる場所が求められていることは、昨今「子

ども食堂」が親同士の交流や親の悩みを相談する場になっているということからも推察される。

3. 「無料居場所」への利用意向は女性全体で高いが、中でも25~29歳で最も高い。また、ずっと非正規・自由・自営、年収は低め、三世帯同居世帯で高い傾向が見られる。女性25~29歳は「サロン」の利用意向も全体より高い。若い女性がかつろぐ場所といえばカフェが思い浮かぶが、お金もかかるし何時間もいられるわけではない。公園や公共空間のような不特定多数の人が行きかう場所は落ち着かない。女性がふらっと行って時間を過ごすことのできる場所は意外と少ないのかもしれない。
4. 「読書スペース」「運動スペース」「学習スペース」「物々交換」といった目的別のスペースの利用意向は、40代以上の女性で高い。既存の図書館、スポーツクラブ、カルチャーセンターのように、何をすべきかが決められている場所・施設への親近感が強いことがうかがわれる。
5. 「シェア農園」「マルシェ」「保健室」については、全体としての利用意向は高くないが、35~39歳の女性では2割前後の利用意向が見られる。この年代の女性は80年代前半生まれで、20代の頃ロハスブームを経験しており、環境志向、ナチュラル志向、健康志向が強いことが関係しているのかもしれない。
6. 「シェアオフィス」は全体的には1割程度の利用意向だが、若い男性、学歴が高い人、正規雇用の人、単独世帯で利用意向が、全体より高い傾向がある。また、「シェアキッチン」も絶対数は少ないが、似た傾向がある。ノマドワーカーを目指すのはフリーランスという印象があるが、正規雇用の若いビジネス



ゴーストレストランのためのシェアキッチン「キッチンベース」のWebサイト。 <https://kitchenbase.jp/>

マンが主流のようである。また、「シェアキッチン」は最近話題のゴーストレストランから連想されるように、新規の飲食ビジネス目的の場所として見られているのかもしれない。

7. シェア空間への利用意向「なし」という人は、男性の50代以上で突出している。また、年収200万~400万円未満、自営業者、高卒以下で多い傾向が見られる。仕事に邁進してきた昭和の男性像を彷彿させる。この年代は家族と職場と居酒屋のようなサードプレイスで満足しているのかもしれない。また、最近の男性向け週刊誌の見出しでは「孤独」を肯定的にとらえた見出しが散見されることから、シェア空間など必要としないのかもしれない。ただ、一方で彼らが孤立することによる問題(健康問題、孤独死等)が深刻であることを考えると、高齢男性にとって魅力的なシェア空間とは何かを考える必要もありそうだ。

今回はそれぞれのシェア空間利用意向者の価値観、ライフスタイル等のプロフィールについて検討する。

調査概要：

- 調査対象 全国男女25~54歳 2,523人、人口は国勢調査などに即して配分
- 調査方法 三菱総研の3万人調査のサンプルへの追加調査としてインターネット調査で実施
- 調査時期 2020年11月16日~19日